

# ホクコースミレックス®水和剤

■種類名：プロシモン水和剤  
 ■有効成分：プロシモン-----50.0%  
 ■PRTR法指定物質：ドデシル硫酸ナトリウム [第1種] -----1.7%

■登録番号：第14499号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：1981.03.19  
 ■性状：類白色水和性粉末 63μm以下  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：100g×100袋、500g×20袋  
 1kg×10袋(北海道のみ、3年)

## 【特長】

- 灰色かび病、菌核病に高い防除効果を発揮する。
- 予防効果が優れているだけでなく、病斑進展阻止効果もあるので、発病前の予防的使用から初発直後の使用まで広い適期幅が期待できる。
- 効果の持続性および耐雨性に優れる。また、浸透移行性を有し、散布ムラの影響を受けず安定した効果を示す。

## 【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロシモンを含む農薬の総使用回数	
りんご	モニリア病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫90日前まで	4回以内	散布	4回以内	
みかん	灰色かび病	1500~3000		開花期 但し、収穫30日 前まで	3回以内		3回以内	
もも	灰星病	1000~1500		収穫3日前まで	1回		1回	
すもも		1000~2000		収穫14日前まで	3回以内		3回以内	
おうとう		1000~1500						
あんず		1500						
びわ	灰色かび病	1000~2000		収穫前日まで	3回以内		3回以内	
ばれいしょ	菌核病	1000~1500		100~300 ℓ/10a	収穫21日前まで		4回以内	4回以内
だいず		1000~2000					2回以内	2回以内
あずき	灰色かび病	1000					4回以内	4回以内
らっかせい	汚斑病	1000~2000	2回以内			2回以内		
いんげんまめ	菌核病 灰色かび病		2回以内			2回以内		
きゅうり	つる枯病	1000	収穫前日まで			6回以内	6回以内 (常温煙霧は 2回以内)	
すいか	菌核病	1000	収穫7日前まで			5回以内	5回以内	
	つる枯病		5回以内			5回以内		
メロン	菌核病	2000	収穫前日まで			3回以内	3回以内	
かぼちゃ		1000~2000	収穫14日前まで			1回	1回	
にんじん		1500	収穫30日前まで					
トマト	灰色かび病	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	3回以内			
なす	菌核病			6回以内	6回以内			
	灰色かび病			5回以内	5回以内			
ピーマン	1000							
ししとう	黒枯病	5000	収穫14日前まで	4回以内	4回以内			
キャベツ	菌核病	2000~3000	収穫7日前まで	5回以内	5回以内			
レタス	灰色かび病	1000~2000	収穫7日前まで					
	灰色腐敗病							
たまねぎ	灰色かび病	1000	2.4ℓ /10a	収穫前日まで	無人ヘリコ プターによる 散布	5回以内		
にんにく	黒腐菌核病	種球重量の 0.4%	—	植付前	1回	種球粉衣 (湿粉衣)	1回	
いちご	菌核病 灰色かび病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
				収穫21日前まで		株元散布		
ねぎ	小菌核腐敗病	1000						

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロミドンを含む農薬の総使用回数
たばこ	菌核病	1000~2000	200ml/株	大土寄せ時	1回	株元灌注	1回
食用へちま		2000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
とうがん				収穫7日前まで			
マンゴー	軸腐病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫21日前まで	3回以内		3回以内

作物名	適用場所	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロミドンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、ビニールハウス等密閉できる場所	灰色かび病	200g/10a	10 $\frac{1}{10}$ ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	常温煙霧	6回以内 (常温煙霧は2回以内)
なす			250g/10a	5 $\frac{1}{10}$ ℓ/10a		6回以内		6回以内

### 【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布すること。
- 石灰硫黄合剤、ポルドー液など強アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - ◆ 内袋はぬれた手で触れないこと。
  - ◆ 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切ること。
  - ◆ 薬液調製の際は、容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく攪拌すること。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守る。
  - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- 定植直後又は幼苗、軟弱苗等には薬害を生ずるおそれがあるので使用はさけること。
- 高温時の散布は薬害を生ずる場合があるので注意すること。
- トマトは薬害を生じやすいので、下記の注意事項を厳守すること。
  - ◆ 次の条件の場合は使用しないこと。
    - ①生育が一時停止するような低温にさらされることがある栽培をしている場合。
    - ②軟弱徒長ぎみな栽培となっている場合。
    - ③微量要素欠乏又はその疑いのある場合。
    - ④高温多湿条件の場合。
  - ◆ 使用する場合は次の注意を守ること。
    - ①有機リン剤との混用はさけること。
    - ②散布液はできるだけ所定範囲内の低濃度(2000倍液)で使用する。
    - ③所定の薬量を厳守し、薬量過剰にならないようにすること。
    - ④繰り返し使用する場合は散布間隔を十分(14日以上)あけること。
- あぶらな科作物(特に白菜、だいこん、ストック)には薬害を生じるおそれがあるので付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組合せて輪番で使用すること。
- 本剤をキャベツに使用する場合は、薬液がかかった葉に極く微少な薬斑を生ずることがあるので、使用濃度を留意すること。
- ハウス内の常温煙霧用として使用する場合は特に次の事項に注意すること。
  - ◆ 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - ◆ 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉しておくこと。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気して入室すること。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- ❖ 常温煙霧においては、薬剤処理中はハウス内に入らないこと。また、処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムで包装した製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。